説教20200531使徒言行録2：1-11　ヨハネ14：8-17　Ⅱ1　181 179

「霊が語らせるままに」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちのうちにもおのぞみ下さい。

　今日、このペンテコステの祭りのとき、私たちが再び集められこの会堂でともに礼拝賛美をお奉げすることが出来ますことを、喜びをもって主なる神に感謝したいと思います。思い返せば、私たち皆が最後にこの会堂に集められて礼拝をしましたのは、4月１２日のイースターの主日でありました。今日に至る迄、私たちは主の御言葉に聞きながら、インターネットを用いたライブ中継の整備などを進めて、ご自宅に居られる兄弟姉妹のために何とか御言葉が届けられますよう努めました。技術的な問題から音声が聞き取りづらいなどの多くの問題を抱えながらの運用となりました。至らなかった点をお詫びいたします。

　イースターからペンテコステに至る迄のこの５０日間、私たちは、教会こよみに即した説教箇所を聞いてまいりました。イースターの祭りとは、主イエス・キリスト様が十字架上で尊い血を流され、そして３日後に復活されたことを祝う祭りですが、それから４０日後にイエス様は天に昇られました。その昇天の日から１０日経った今日が、ペンテコステの祭りの日です。ペンテコステはキリストの教会の誕生日ともいえます。

イエス様は、この教会の誕生日を、当時のユダヤ教のこよみに忠実に従って設定なさいました。どういうことかといいますと、イースターはユダヤ教では過ぎ越し祭、そしてペンテコステは五旬祭と申しまして、それらの祭りをもとにキリスト教の祭りも行われているのです。過ぎ越し祭は、神の民がエジプトから脱出する際に、戸口に塗った血のしるしによって、災いを逃れたことを祝う祭りです。その時、神の民は急いで食事を摂らなければならなかったので、その時のパンは酵母を入れない種無しパンでした。本日の招きの言葉で読まれた申命記１６章には過ぎ越し祭の祝い方を「７日間、酵母を入れない苦しみのパンを食べなさい」と規定しています。そのように苦しみを感じながら主なる神は「主の過ぎ越し際を祝いなさい」と神の民に命じられました。一方でそれから５０日後の五旬祭は、穀物が豊かに実り、気候も良くなって、過ぎ越し祭の時の何十倍もの人数の神の民がエルサレムの街に集められ、皆はこの祭りを大いに祝いあったのでした。それはある意味、収穫感謝を主なる神にささげる収穫感謝祭であり、そして、酵母を入れたパンを味わい食して、共に喜ぶ祝祭の場であったのです。申命記１６章１１節では「こうしてあなたは、あなたの神、主の御前で、すなわちあなたの神、主がその名を置くために選ばれる場所で、息子、娘、男女の奴隷、町にいるレビ人、また、あなたのもとにいる寄留者、孤児、寡婦などと共に喜び祝いなさい」と、その喜び方までも規定されています。果たしてこのように喜びなさいという掟だけで、心から喜び合えるかは疑問の余地がありますが、何れにしましてもユダヤ人たちは、収穫の感謝に加えて、自分たちに救いに至る律法が与えられたことを、共に集まり祝ったのでした。その多くの人々が集められたエルサレムの町で、人々は、思いもよらない新たなる救いの出来事を毎年、待ち望んでいたのです。

　そしてその人々の願いをイエス様はかなえて下さって、その日に私たちのために教会を誕生させて下さったのです。それが今日読まれました、使徒言行録２章の箇所です。イエス様は昇天する前に、弟子たちに対して、「あなた方の上に聖霊が下ると、あなた方は力を受ける」といって、聖霊を私たちにお与えになることを約束されました。そしてその聖霊なる神が下るのは、地の果てに至る迄の全ての人々、おひとりおひとりに対してなのです。本日のヨハネ福音書の箇所ではイエス様はそのことを次のように語っておられます。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。」この別の弁護者というのが聖霊なる神のことです。聖霊なる神は私たちひとりひとりの内に永遠にとどまって下さり、そうして私たちに、救いへの道を歩む力を与えて下さるのです。

　イースターから数えて５０日目の思いもよらない新たなる救いの出来事が、教会の誕生日であるペンテコステの祭りの出来事ですが、私たちも、この実際の過ぐる５０日間の歩みの後に、今日教会に集められて、同じような思いをさせられたのではないでしょうか。

　私たちは、新型コロナウィルスの出現によって、この地の全ての者が打ちひしがれ、そして多くの教会の会堂に信徒たちが集えなくさせられました。そのこと自体も御心であったのかも知れません。しかし私たちは、自分たちに迫りくる脅威の虜となってしまい,主なる神を恐れることを忘れてしましました。この世から見放され隔離されている病いの人にこそ格別の憐れみをお与えになるイエス様の愛を忘れてしまいました。主よ、私たちは知らないうちに犯してしまった罪の数々を再び御前に告白します。どうか主よ罪深いわたしたちをお赦し下さい。

　イエス様は、私たちに先立って天の御国へと昇られ、私たちのために住むところを用意していてくださいます。そして約束通り、地にいる私たち一人一人に聖霊をお与えになられました。

　先週、大分県広報課が全国に向けて新型コロナ終息祈願動画「うち風呂」を発表しました。滝廉太郎の花の旋律に載せて、今後の新型コロナとの対処法を提起する内容の替え歌がうたわれますが、その歌詞には元気づけられます。「ウィルスもストレスもきれいに流しましょう。お風呂につかればよく眠れます。お風呂と睡眠で免疫力アップ。こんなに人類が一つなら、その日はやって来る、やって来る」１カ月前ですと絶対に歌えなかったような前向きな言葉がそこには並んでいます。この動画を見れば

元気が出ること間違いなしですので、皆さんも是非ご覧になって下さい。私は、このような言葉を全国に向けて発信できるこの大分県に遣わされて本当に良かったと思います。このような大胆な言葉を編み出した大分県広報課の方々にもひょっとして聖霊が降臨されたのではないでしょうか。私はそのように信じます

　さて、この替え歌と聖書と関係あるんですかと言われそうですが、本日の使徒言行録２章の聖書箇所にも、普通には理解しがたい、言葉の出来事が記されています。２章7節から「人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、、ちょっと飛ばして11節から、、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

　つまり使徒たち、その多くはガリラヤ出身であったのですが、その人たちがしゃべる言葉が、世界各国から集められた、一人一人にとって母国語のように理解できる言葉として聞かれたというのです。このことも聖霊なる神が一人一人に下られてなされた不思議な業であるとしか言いようがありませんが、或る註解書ではこの出来事を、使徒言行録の著者ルカがそのように信じたことによって記録されたものと解釈をしています。そのように様々な解釈が可能ではありますが、ともかく、この聖霊降臨の記事、そして、今この時、私たちがこの教会の誕生日に教会に集められているこの場においては、神が私たちに人間に関わられる危急の時でありますので、そこで起こることを、十全に言葉にすることはなかなか難しいことです。言葉にならないことを敢えて言葉にしているのが実情です。私たちはその支離滅裂な言葉から、ただ聖霊なる神を呼び求めましょう。そして一つの聖霊に身を委ね、そこに留まり続けましょう。

　私たちが聖霊なる神のお導きの内に歩まされるこの地上での歩みは、思いもかけない救いの道です。私たちが祈祷の中でよく口にする、新しく歩ませてください、とか新しい命に生き、とかいう祈りは、決して私たち人間が計画した新しい生活などではありません。そのような新しい歩みを、私たちは日々、聖霊なる神のもとに留まりつつ、恵みとして与えられるのです。その歩みは、ヨハネ福音書の言葉でいえば、神は私たちと一緒にいるのです。そしてその神の愛に留まりつつ、その「留まる愛」によって私たちが愛し合うことによって、永遠の命が続いて行くということはこれまでの説教でお話した通りです。

　私たちは耳を澄まして、聖霊なる神のささやきを聞き分ける必要があります。聖霊なる神は今この時のような危急の時にこそ、私たち一人一人に下って来られますが、私たち自身が心騒がせている状態では、私たちは聖霊なる神の内に留まることが出来ません。

　そのように私たちは心を静めて今一度、「うち風呂」のメッセージに耳を傾けてみましょう。「こんなに人類が一つなら、その日はやって来る、やって来る」この最後の言葉は、今、教会に集められ、一つの聖霊に満たされている私たちにとって、救い主イエスキリスト様による「かの日」のこととして受け取るに十分ですが、私たちが聖霊なる神から離れるとき、このメッセージはたちまち実にありきたりな陳腐なものへとなってしまうでしょう。ここで歌われる「その日」を単に、人間による新型ウィルス克服の日へと矮小化してとらえることを、主なる神は悲しまれると思います。

　使徒言行録２章の箇所で、人々は様々な言語を話していたことが記されますが、人々がお互いに聞き分けられない多くの言葉に分かたれたゆえんが、創世記１１章の有名な「バベルの塔」の箇所に記されています。１１章１節によりますと、神様によって人々の言語がこのように混乱させられる前には、世界中は同じ言葉を使って、同じように話していたのでした。しかし、人間たちは一つになって、バベルの塔を築き始めました。そこに在った神を顧みない人間の傲慢を、主なる神は愛をもって、彼らの言葉を混乱させることによって止めさせたのでした。そして人間はそこから全地へと散らされたのでした。その散らされた私たち人間をイエス様は、めんどりがひなをその羽のもとに集めるように、何度も何度も集めようとされています。イエス様は、今は天に昇られ、その姿は私たちには見えなくされていますが、約束通り聖霊を私たちに下され、そして教会を建てられました。イエス様は寄留者、孤児、寡婦そしてこの世から見放され隔離されている病いの人を一人残らず集めることによって、「全ての人を一つに」されようとしています。私たちは耳を澄ましてイエス様の言葉をきかないと、この大切なことを聞き逃してしまうのです。

全ての教会に掲げられている「どなたでも、是非お越し下さい」というお誘いは、神の愛に入れられている、私たちからの掛け値なしのメッセージです。私たちがこの誘いのメッセージを心を尽くし知恵を尽くしそして力を尽くして、隣人たちに届けるとき、必ずイエス様は私たちをこの教会へと集めて下さいますことを私は信じます。

お祈りいたします。

天にいらっしゃいます全能にして憐れみ深い私たちの父なる神よ。

今日この聖霊降臨の日に私たちは、約束通り聖霊を頂き、救いへの道を共に歩む力を与えらました。主よ本当にありがとうございます。私たちが寄留者、孤児、寡婦そして見放され隔離されている病の人たちに寄り添い、お互いに愛しあうことが出来るようにして下さい。

今日は以前のように又、みんなでこの会堂に集いあなたを礼拝賛美することが許されました。また、ご自宅でこの時に礼拝を捧げる方もおられます。又、この会堂で今日から主日の夕方からの礼拝も持たれることになりました。これらのご配慮に感謝しますとともに、どこに居ましても私たちに豊かなあなたのお恵みを注いでくださますようお願いいたします。

新型コロナウィルに罹患して亡くなられた方、そのご家族、治療に全力を尽くされております医師の方々を顧み、慰め、癒し、励ましをお与えください。

全て、不安のうちに過ごしておられる方、悩み苦しみのうちにある方方をあなたの深い慈しみによって励まし、生きる力を与えてください。

主よあなたはこの地の全ての者、お一人お一人に、一つの聖霊を下されました。どうか私たちがその聖霊に留まり、み栄を表すことが出来ますように。あなたと共にある日を私たちが共に迎えることが出来ますように。

主よ、全て世を去った方々、殊に栗栖由美子さんのお父様を顧みて下さい。どうか主の深い慈しみのうちに、彼らを守り、主の全きみ旨を成し遂げて下さいますように、み子、救い主イエス・キリストによってお願いいたします。